

IoTを活用した見守りサービスの展開

～金沢大学との共同研究がきっかけ～

■ 共同研究の目的

児童の移動履歴データを活用し、
産・学・官連携で安全かつ安心な暮らし
の実現を目指す

■ 役割（5者連携）

民間事業者：サービス提供
(3事業者)

金沢大学：データ分析、実装補助

羽咋市：事業環境の全体管理



IoTを活用した見守りサービス（R4.4月～）の概要

■対象者

市内全児童の希望者を対象に見守り端末を配付
（新1年生は全員配付）

■見守りスポット（受信機器）

市内全6小学校区の通学路を主として80カ所

■サービスプラン

- ①緊急時に児童の位置情報を提供（無償）
- ②常時、保護者へ位置情報を提供（有償）

■利用者（9月末現在）

全児童790人中 113人が利用中



スマートフォンの表示イメージ



IoTを活用した見守りサービス イメージ

①見守り端末を携帯



②いつも通りに歩くだけ

③見守りスポットで電波を受信し位置情報を記録



1学区20箇所程度



全国3万台が稼働



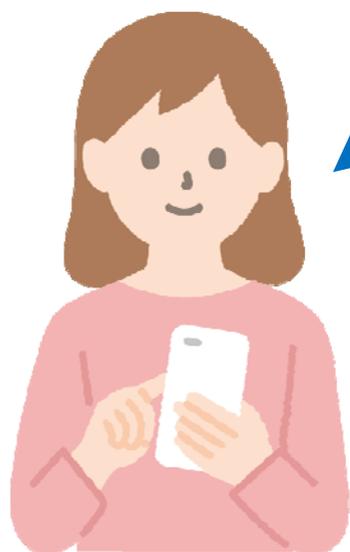
位置情報システム

④保護者のアプリに通知&位置確認



スマート化ネットワークへ

将来的には、小学生の見守りだけでなく、高齢者の見守り、交通安全、健康増進活動の促進など、様々な地域スマート化ネットワークの基盤として活用・展開予定



子どもの見守り



高齢者の見守り



交通安全